

いざというとき、自らの命を守るために。 ハザードマップを見て確認すること

頻発する集中豪雨や大規模台風から身を守るために大切なのは、「避難行動」を事前に決めておくことです。その第一歩が、ハザードマップを見て自宅や会社、学校など身近な場所の災害リスクを知ること。他にも、避難行動を決める上で大切な要点を、防災のプロが紹介します。「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクを平時の今こそ確認しましょう。



洪水や土砂崩れ等の災害リスクが一目でわかる！ 統合型ハザードマップ

今回は「最大規模の降雨」を想定し、作成しました。フローチャートを使って、とるべき行動を家族でしっかり確認しておきましょう。

危機管理防災総室 主任技師
羽廣 正樹

気象予報士、防災士の資格を持つ防災のスペシャリスト。今回の統合型ハザードマップの作成を担当。



避難行動判定フロー

平時に
確認

あなたが取るべき避難行動は？〈ハザードマップを見ながら考えてみましょう〉

ハザードマップ*で自宅を確認しましょう。
家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

【自宅避難】

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は必要に応じて避難が必要です。

はい

自宅避難が可能ですか？

次の項目を満たす場合、自宅避難が可能です。

洪水

- 河川付近に住んでいない
- 浸水する深さよりも屋内の高いところに避難できる
- 水がひくまで我慢できる水・食糧等がある

土砂災害

- 十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる

はい

【自宅避難】(2階以上に避難)

浸水の恐れのある方は2階以上、土砂災害の恐れのある方は崖と反対側の2階以上に避難してください。

いいえ

災害の危険があるので、自宅外避難が必要です。
ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

【警戒レベル3で自宅外避難】

遅くとも警戒レベル3が出たら、
安全な親戚宅や知人宅、宿泊施設、本市で指定している指定緊急避難場所に必ず避難

いいえ

【警戒レベル4で自宅外避難】

遅くとも警戒レベル4が出たら、
安全な親戚宅や知人宅、宿泊施設、本市で指定している指定緊急避難場所に必ず避難

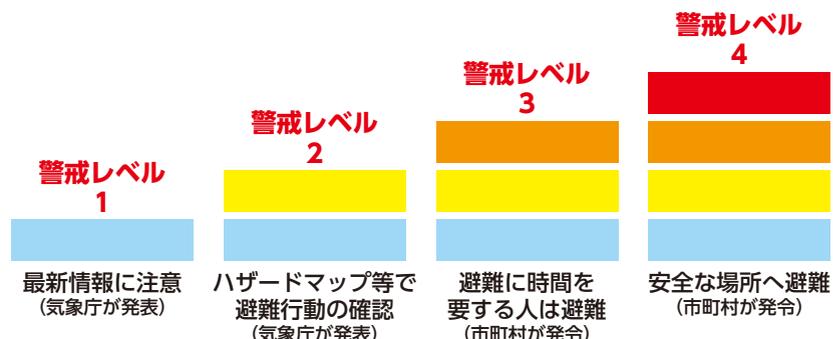


警戒レベルとは、災害発生の危険度のことで、レベルごとに避難行動の目安が示されています。

『熊本市統合型ハザードマップ』
はこちら→



*ハザードマップとは、浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。



ココが
大切！

避難の目的は「難」を「避」けることです！

「安全を確保すること」が目的です。ハザードマップで自宅の安全が確認できた方は避難場所に行く必要はありません。